



各 位

平成 20 年 9 月 25 日

会社名 株式会社 三越伊勢丹ホールディングス

代表者名 代表取締役会長兼最高経営責任者

武藤 信一

(コード番号 3099 東証第 1 部)

問合せ先 管理本部総務部コーポレートコミュニケーショングループ 長

川野辺 浩司

TEL03-5843-5115

株式会社三越における構造改革の実施についてのお知らせ

当社ならびに株式会社三越（当社完全子会社。以下「三越」という。）は、本日開催の両社取締役会において、三越の構造改革の一環として、三越池袋店、三越鹿児島店、三越武蔵村山店、三越名取店と小型店舗 2 店（三越鎌倉、三越盛岡）の営業終了、ならびに池袋店固定資産の譲渡を決議いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 構造改革の実施について

当社は平成 20 年 4 月に株式会社伊勢丹と三越の経営統合により設立され、「三越伊勢丹グループ企業理念」に掲げる「世界随一の小売サービス業グループ」を実現するべく、平成 25 年度連結営業利益 750 億円（営業利益率 5%）の達成を目指し、投資計画、保有資産・事業の見直しを行いながら、選択と集中による収益のさらなる向上、収益力を高める事業スキーム、不採算事業の撤退等の検討を進めております。

その一環として、三越においても、企業を取り巻く環境の変化が厳しさを増す中、昨今の業績状況や各店舗の将来性等を踏まえると、一段の構造改革及び財務基盤の強化が必要との認識に至り、三越池袋店、三越鹿児島店、三越武蔵村山店、三越名取店、小型売店 2 店（三越鎌倉、三越盛岡）の営業終了、ならびに三越池袋店固定資産の譲渡を決議いたしました。

今後については、「選択と集中」の観点からの戦略的な投資の集中、店舗収益構造の変革による地域競争力強化のために、地域事業会社化などの施策・組織体制を検討し、企業の収益力をさらに高めるための構造改革を推進いたします。これらの構造改革施策については、「三越伊勢丹グループ 3 ヶ年計画」の内容の一部として改めてお伝えしてまいります。

2. 店舗の営業終了について

(1) 営業終了の理由

三越池袋店は、昭和 32 年の開店以来、営業してまいりましたが、同一地区内の競合他店と比べ、店舗規模が小規模であることなどから、厳しい競合環境にありました。今後営業力を強化するための大規模な投資を実施した場合、投資回収は非常に困難であることが想定されることに加え、首都圏において

は平成 22 年（予定）の三越銀座店大幅増床、三越日本橋本店の強化などを控えており、経営の効率化の観点から、経営資源の選択と集中を図ることで収益力向上をめざすべきであると判断し、平成 21 年 5 月 6 日（予定）をもって営業を終了することといたしました。

三越鹿児島店は、昭和 59 年に株式会社丸屋から株式会社鹿児島三越に商号変更し、平成 15 年からは三越鹿児島店として、営業してまいりました。平成 19 年には上層フロアに「三越スイーツ庭園」を導入するなどの改装を実施したもののその効果は持続せず業績が低迷していること、今後店舗運営を続ける上ではさらなる投資が必要となる中、投資回収の見込みが立たないことなどを踏まえ、平成 21 年 5 月 6 日（予定）をもって営業を終了することといたしました。

三越武蔵村山店、三越名取店の 2 店舗については、新業態郊外型店舗として平成 18 年に武蔵村山店を、平成 19 年に名取店を開店し、営業してまいりました。しかし、当初計画値に対し未達の状態が続き、平成 19 年度に減損処理を実施した後も営業損失の解消が見込めないことから、平成 21 年 3 月 1 日（予定）をもって営業を終了することといたしました。

小型売店 2 店（三越鎌倉、三越盛岡）についても、業績の低迷が続き、営業を継続することは難しいと判断し、平成 21 年 3 月 1 日（予定）をもって営業を終了することといたしました。

お客様のご期待に沿った形での営業継続が困難なため営業を終了いたしますが、ご愛顧、ご支援をいただきましたお客様、お取引先、地域の皆様にはご迷惑、ご不便をおかけすることになり、深くお詫び申し上げますとともに、長年のご愛顧を心より御礼申し上げます。

(2) 営業を終了する店舗の概要

店 舗 名	三越池袋店	三越鹿児島店
所 在 地	東京都豊島区東池袋 1-5-7	鹿児島県鹿児島市呉服町 6-5
沿 革	昭和 32（1957）年開店	昭和 59（1984）年 （株丸屋より株鹿児島三越に商号変更 平成 15（2003）年 百貨店 5 社による新設合併で三越鹿児島店となる
代 表 者	杉山 潤治	山本 正隆
売場面積	25,026㎡	18,734㎡
売 上 高	241億7千4百万円	107億7百万円
従業員数	358名 (社員240名、有期雇用社員118名)	299名 (社員113名、有期雇用社員186名)

店 舗 名	三越武蔵村山店	三越名取店
所 在 地	東京都武蔵村山市榎 1-1-3	宮城県名取市増田字関下 460 番地 17 街区 1 画地
沿 革	平成 18（2006）年 SC「ダイヤモンドシティ・ミュー」（現「イオンモール武蔵村山ミュー」）に郊外型店舗として初出店	平成 19（2007）年 SC「ダイヤモンドシティ・エアリ」（現「イオンモール名取エアリ」）に出店
代 表 者	増田 光彦	大野 康夫
売場面積	11,479㎡	11,532㎡
売 上 高	31億2千2百万円	37億5千3百万円
従業員数	123名 (社員18名、有期雇用社員105名)	133名 (社員17名、有期雇用社員116名)

(注) 代表者は、池袋店、鹿児島店は店長、武蔵村山店、名取店は支配人。

売上高は平成 20 年 2 月期実績。

従業員数は平成 20 年 2 月末現在。

(3) 営業終了予定日

三越池袋店、三越鹿児島店 平成21年5月6日(予定)

三越武蔵村山店、三越名取店、小型売店2店(三越鎌倉、三越盛岡) 平成21年3月1日(予定)

(4) 従業員の処遇

営業を終了する店舗の従業員の処遇については、退職を選択する従業員に向け、営業終了に伴う特例措置、再就職支援などの措置を予定しております。

(5) 今後の見通しについて

営業終了に関わる損失として、平成21年3月期第2四半期における四半期純利益への影響は、軽微となります。また、平成21年3月期通期の影響については、確定次第お知らせ致します。

3. 三越池袋店固定資産譲渡について

(1) 譲渡の理由

株式会社三越では、従来から所有不動産について、資産価値の最大化とその利用のあり方を吟味し、今後の活用について検討を重ねてまいりました。

今回の三越池袋店の営業終了に伴い、収益力向上のための新たな投資資金確保に加え、財務体質の改善、有利子負債の削減を目的として譲渡するものです。

(2) 譲渡資産の内容

①譲渡内容	土地・建物・借地権
②所在地	東京都豊島区東池袋一丁目5番7外
③帳簿価格	569億7百万円(平成20年6月末現在)
④譲渡価格	750億円(譲渡経費は未確定)

(3) 譲渡先の概要

①商号	シンプレクス・リート投資法人
②本店所在地	東京都千代田区丸の内一丁目2番1号
③代表者	執行役員 野崎 義雄
④当社との関係	当社とシンプレクス・リート投資法人との間には資本的関係はありません。

(4) 譲渡の日程

平成21年9月30日(引渡しと同時)

(5) 今後の見通しについて

平成21年3月期への影響はありませんが、平成22年3月期への影響額は、現時点において、譲渡経費が確定していないため、確定次第お知らせ致します。

以上